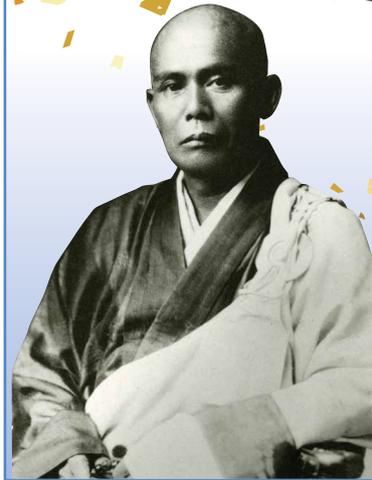


なつめ そうせき  
夏目漱石らにも

しやくそうえん  
影響を与えた  
釈宗演



釈宗演肖像  
(個人蔵)

日 仏友好160年を記念して、フランスのパリで行われた「ジャポニスム2018」。その中には、「禅文化週間」と称し、禅に関わる書画・庭園・茶道などを取り上げた展示が行われるとともに、臨済宗円覚寺派横田南嶺管長による「ZEN」の講演会が実施されました。この「ZEN」を世界に広めたのが、高浜町出身の釈宗演禅師です。

宗演は幼名を常次郎つねしろうといい、病弱な子どもでしたが、5〜6歳頃から次第に身体も丈夫になっていきました。10歳になった時、親戚にあたる

越溪守謙えつげいしゆけん老師が実母の92歳の祝賀で高浜に帰郷され、その際、宗演は出家しました。

宗演の幼少期の腕白な様子を伝えるエピソードがあります。建仁寺(京都府京都市)の千葉俊崖ちのばしゆんがい老師のもとでの修行中、夏の盛りの暑い時期のことです。老師は知恩院ちおんいん大方丈おほむかむに出かけていました。鬼のいぬまに何とやらで、宗演は廊下で手足を大字に広げ昼寝をします。ところが、思ったより早く老師が帰ってきました。老師が自室に行くには宗演が昼寝をしている廊下を通るしかありません。宗演は起きるに起きられず寝

たふりをしたのです。そんな弟子の姿に怒るでもなく、宗演の足元から「ご免なされ」と言い、居間に入っていました。その時の宗演の心の内は、きつと生きた心地がしなかったのではないのでしょうか。

宗演は26歳という異例の若さで修業を終えますが、その後、多くの著名な人物と交流しています。明治18(1885)年、慶應義塾に入学すると、福沢諭吉ふくざわゆきちに師事して西洋の学問を学びます。その後、「幕末の三舟さんぶね」の一人、山岡鉄舟やまおかてつしゆに出会い、「和尚の目は鋭すぎる。もつと馬鹿にならねばいかん。印度いんどへでも行って来るがいい」と助言を受けます。諭吉と鉄舟の支援の下、宗演はセイロン(現在のスリランカ)に向かい、修行の日々を過ごしました。

また、宗演は、明治の文豪、夏目漱石そうせきとも深い関わりがあります。明治27(1894)年12月、漱石は円覚寺の宗演の下で2週間参禅。この時の体験をもとにしたのが小説『門』であり、小説中の老師とは宗演のことを指しています。大正2(1913)年にも東慶寺で面会しており、この時のことは随筆『初秋の一日』に記されています。また、漱石の葬儀の際には、漱石の遺言により、宗演が導師を務めました。

多くの著名な人物と交流し影響を与えた釈宗演。2018年には没後100年を記念し式典が開催されるなど、彼の教えは今を生きる人々にも伝えられています。



釈宗演顕彰碑 (高浜公民館横)

関連史料・ゆかりの地

釈宗演生誕の地



釈宗演没後100年を記念して町内外の有志の寄付により整備されました。元よりあった生誕地の碑のほかに新たに略歴碑が設置されました。

【住所】大飯郡高浜町若宮2-47 (JR若狹高浜駅より徒歩約10分)

参考資料等

井上禅定『釈宗演伝』禅文化研究所  
高浜町郷土資料館編『平成15年度企画展図録「釈宗演」』

執筆・協力

高浜町郷土資料館 主査 寺下 千代美